

スターチス・シヌアータ新品種「紀州ファインホワイト」及び「紀州ファインイエロー」の育成

暖地園芸センター

研究のねらい

本県のスターチス・シヌアータは、生産量が全国第1位ですが、栽培される品種の数が多いため、他産地との差別化を図るために、本県独自の品種（オリジナル品種）の作出・活用が必要です。また、生産現場では、萎凋細菌病による被害が増大していることから抵抗性品種の育成が求められています。そこで、萎凋細菌病に抵抗性があり、早生で生産力が高いオリジナル品種を育成します。

研究の成果

①育成経過

「紀州ファインホワイト」は、1999年に県内で育成された品種系統を混植したハウス内にミツバチを放って交配し、「ラズベリードリーム」を母親とする実生から選抜した早生品種です。また、「紀州ファインイエロー」は、2002年に「紀州ファインホワイト」と同様に交配し、「ほたる」を母親とする実生から選抜した早生品種です。

②スターチス萎凋細菌病抵抗性程度

両品種とも強い抵抗性があります（表1）。

③生育・開花特性

「紀州ファインホワイト」はがくの色が純白に近い白色の品種で、「紀州ファインイエロー」は、がくの色がレモン色の品種です。両品種とも、草丈は100cmを超える高性で、花房が大きく、ボリューム感がある品種です（図1、表2）。

成果の活用面・留意点

- ①現在、種苗法に基づく品種登録に出願中です。
- ②萎凋細菌病汚染ほ場へ導入し、防除技術との併用により被害軽減が期待できます。
- ③パテント料を安く設定するなど種苗の低コスト化を図り、県内の生産者に普及を推進します。

表1 「紀州ファインホワイト」と「紀州ファインイエロー」の幼苗検定による萎凋細菌病抵抗性程度

品種	供試株数	発病株率(%)			健全株率(%)
		枯死	萎凋	葉脈赤変	
紀州ファインホワイト	10	0.0	0.0	0.0	100.0
ミルキーウェイ	10	0.0	0.0	20.0	80.0
アクアブルー	10	30.0	0.0	20.0	50.0
紀州ファインイエロー	10	0.0	0.0	10.0	90.0
クリスタルイエロー	10	0.0	0.0	10.0	90.0
ムーンエーゼ	10	0.0	0.0	0.0	100.0
サンデーラベンダー	10	0.0	30.0	50.0	20.0

注)病原菌の接種:苗の根端を切り、病原菌汚染土壌に移植
 接種後の管理:ガラス温室において底面給水で育苗した。
 調査:病原菌の接種から2ヶ月後、枯死・萎凋・葉脈赤変株を調査

表2 「紀州ファインホワイト」と「紀州ファインイエロー」の生育・開花特性

品種	草丈(cm)	花房数(房)	花房長(cm)	花房幅(cm)
紀州ファインホワイト	101.1	10.4	8.8	4.0
ミルキーウェイ	105.8	27.4	6.6	2.9
リウスホワイト	97.5	9.3	9.3	4.6
紀州ファインイエロー	116.7	12.2	7.3	3.7
クリスタルイエロー	90.3	15.6	5.6	3.4
ムーンエーゼ	104.6	13.2	6.2	3.3

注)定植:2004年9月7日、ガラス温室にて最低温度13℃で管理した。



図1 「紀州ファインホワイト」(上)
 「紀州ファインイエロー」(下)

(問い合わせ先:0738-23-4005)